

〔一〕次の文章を読んで後の問いに答えなさい。なお、本文は一部省略したり、字句を改めたりしたところがあります。

わたしは今、イタリアのボローニャという人口四十五万の町にキヨウミを抱いております。ボローニャ市では直接民主主義と間接民主主義を一緒にくつつけて、町のことは全部住民が決めていくボローニャ方式という大変おもしろい実験をしております。これを戦後ずっとやっていっているんです。それを調べに行くという仕事をここ二、三年やっているうちに、イタリアにマクドナルドやケンタッキーフライドチキンといったような店がとてもしないことに気がつきました。調べてみると、たとえばマクドナルドはイタリア人に何とかしてハンバーガーを食べさせようと何度も店を出したらしい。ところが、それがごとごとく失敗に終わっている。

これをイタリア人の側から見れば、「余計なお世話だ」ということになるでしょう。さらにイタリア人はこうつづけるはずで、「わたしたちはイタリアに住んでいる。このイタリアには昔からさまざまな食べ物がある、わたしたちはそれに満足しているし、またそれに手を加え、工夫を足している。そうすればおいしい食べ物にしている。この上、なぜ、料理のデントウもないアメリカあたりの、つまらない食べ物を食べなくちゃならないんだ。ほっといてくれ」と。わたしはイタリアの人たちのこの自信と、自分たちが祖先から引き継いだ食べ物を愛する気持ちを心から尊敬します。これに引きかえ、自分の持っているものを次つぎに放り出して、わけもわからず新しいものに飛びつくわたしは自身を軽蔑したくなってまいります。

一九九七年の暮れ、わたしはイタリアで全国規模の農民デモにぶつかりました。イタリアの隅々から、乳牛を引き連れた農民のデモ隊が、全土の、ありとあらゆる高速自動車道路を、ローマを目指して、ゆっくり歩いていました。一カ月間にわたる大規模なデモ行進です。このため全土の自動車網が麻痺して使えなくなってしまうていました。〔一〕このデモ行進を「気持ちのわかるが、迷惑をかけてはいけない」なんて言う人はいない。市民が拍手を送っていました。

なんでも調べるというのがわたしの癖で、さっそく聞いて回ると次のようなことがわかりました。いよいよヨーロッパ連合(EU)が発足する、ヨーロッパが一つになる。〔二〕イタリアはもう牛乳生産をおよしなさいと、フランスとスイスが言い出した。イタリアの牛乳は味が落ちるし、ネーデルラントも高い。だから牛乳づくりはフランスとスイスに任せなさい。おいしい牛乳をうんと安く飲ませてあげますよ。〔三〕イタリアの人たちが腹を立てたのです。

おれたちの飲む牛乳はおれたちが決める。差出口は叩かんでもらいたい。そして、それに抗議して大デモを展開することになったのです。

これにくらべて、ウルグアイ・ラウンドのときの日本の様子はどうかだったでしょうか。答えは、わたしたちそれぞれが胸に手を当てて思い出してみれば明らかです。

さて、全土からの乳牛を運んだデモ隊は一カ月の示威行進の末、一九九八年の元日の朝、ローマに到着しました。そして彼らはヴァチカン市の法王庁前の大広場に集結、ローマ法王に乳牛を献上しました。そのときはわたしもその場に駆けつけました。乳牛と農民と市民で埋めつくされた大広場に向かって、法王庁四階のバルコニーからローマ法王がシユクフクの十字架を何度も何度も切っ

— 1 —

ていました。ほんとうに感動しました。〔三〕自分の運命は自分で決めると決心した人間の姿にはすばらしいものがありました。

では、フランスはどうしたか。フランスはあやまりました。すまなかった、失言をした、我々がEUの中の牛乳を全部受け持つというのは傲慢であった、ほかの国のことを考えていなかったからごめんさいということになりました。牛乳問題はそれで解決するんです。というふうに自分の国の食べ物を守るために、人任せではだめですから、自分で守るという原則を持って、いろんな国がそれぞれずつと続いたその国の地形や風土や歴史がつくってきた穀物と食べ物を食べるということを守っているのです。

ところが、日本は違う。日本人の基本的な朝ご飯はもうわからなくなりました。昔はご飯に味噌汁、それで焼き魚があれば上等ですね。あと漬物。それに玉子焼きがついたり、焼きノリがついたりしますけれども、それを朝食べる。

昼は弁当である。弁当も大体シャケがついているとか、梅干しが二つぐらいあるとかですね。ノリ弁というのが最高のごちそうでした。ご飯を三分の一ぐらい入れて、その上にしょうゆをつけたノリを敷いて、ご飯をのつけて、またノリ。皆さん食べたことないですか。ノリを三枚使いますから大変なごちそうで、これはたいそうおいしかった。

シャケは、塩引きといまして、薄っぺらいのでご飯が五杯ぐらい食えるしよっぱいやつがあります。それをご飯の上につけて、ふたをする。お昼にあげると、塩引きの塩と脂が何となくご飯の間にずつと広がっている。塩引きをふたに取りのけて、まず塩と脂のしみこんだご飯を食べる。そのおいしさは、また格別でした。夜は一家そろって食べていました。〔四〕

というわけで、食生活というのは、実は都市の構造にも関係してくるわけですね。今の東京のつくられ方はめちゃくちゃですから食生活もめちゃくちゃになっている。丸の内の夜、これは恐ろしい。だれもいません。墓場みたいなんです。働き手の人たちが長い間電車に揺られて住宅地へ帰っていく。結局、住宅地は給料生活者が主ですから、みんな大体似たような構成になっている。また朝になると、そこから電車でオフィス街へ出てくる。こういうやり方はおそらく二十一世紀に通用しないでしょう。つまり、二十世紀は、地面をとにかく平らにして、そこに四角い建物を建てて、その中を区切つて均質な空間をつくって、そこで事務を取り、モノをつくるということが基本になった。本当はそこに人が住まない、その街の楽しさというのは出てこないんですが、みんな帰ってしましますから街はただのAになる。たしか千代田区は、夜間人口は三万人を割ったはずなんです。昼間は百八十万人がやってくる。これでは毎日Bが来ているようなものです。〔五〕

住むところはどんどん遠くなる。ですから、お父さんがいくら頑張っても、一家団欒でご飯を食べるとなると午後九時半とか十時ぐらいになって、これは成立しません。そうやってわたしたちは、とにかくもうけ、収入がふえるということだけを目的にずつとやってきましたので、そういう家庭の生活というのをあまり注意しないようにして、とにかく経済効率、収入が上がるという方へどんどん進んできた。〔六〕

間違えということではありませんが、これはやっぱり寂しいですね。街というものが全然成立しませんし、大きな店が街に昔からある小さな店をどんどんつぶしていく。〔七〕

— 2 —

日本語もそうです。日本語も、今、アメリカ英語と一緒にあって、ビジン語化しています。日本語と英語がチャンポンになっている。それがビジン語化です。とにかく日本語は今ひどい状態にある。④

その上、髪を染める。分厚い底の靴を履く。そうすると、背の低い人が高くなる。キリスト教徒よりも熱心にクリスマスを祝う、キリスト生誕にどんな意味があるかも知らずに大さわざする。何でしようね。日本人でいるというのが恥ずかしいのか。日本人というのは何か。つまり、この島国に生まれて、こういうものを食べて、頑張つて生きていくという約束事が今全部崩れているわけです。

そうやってだんだんと根なし草になって、この島国になぜか生まれ合わせて、日本語を使って、勉強したり恋をしたり子どもを育てたりするという約束事がだんだん崩れてきているというのが現状だと思います。

(井上ひさしの文章による)

(注)

- 1 直接民主主義……政治をするときに、代表者を選んでまかせるのではなく、住民が自分で直接、集会に参加したり投票したりして、ものごとを決めていくやり方。
- 2 間接民主主義……政治をするときに、選挙などの方法によって代表者を選出し、住民から政治をまかされた代表者がものごとを決めていくやり方。現在、日本をはじめ、ほとんどの国が「間接民主主義」のやり方をしている。
- 3 デモ……同じ意見を持った人々が集まって、抗議や要求をするために行う行進。
- 4 ウルグアイ・ラウンド……多くの国が参加して一九八六年に南米のウルグアイで始まった国際的な貿易交渉。日本の米輸入問題も議題となった。
- 5 示威……威力や意気込みを他に示すこと。
- 6 法王庁……イタリアのローマにある、全世界のローマ・カトリック教会の中心となる組織。ここではその組織のある建物のこと。
- 7 傲慢……自分の方が上だと思いがり、他人をばかにして見くだすようす。
- 8 丸の内……東京都千代田区にある、皇居外苑と東京駅に挟まれた地区。東京駅を中心に、隣接する大手町と共にビジネス街として発展している。
- 9 ビジン語……現地の人と、そこへやってきた貿易商人などの外国語を話す人々との間で、お互いに話を通じ合わせようとして二つの言語が自然に混じりあつてできた言語。
- 10 チャンポン……二種類以上のものをまぜこぜにすること。

— 3 —

問一 —— 部 (ア) (オ) のカタカナは漢字に、漢字はひらがなにそれぞれ直しなさい。

問二 ~~~~~ 部 (a) 「差出口」・(b) 「均質な」の意味として最も適切なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。

(a) 「差出口」

ア つらい立場に立った者をいじめていうことば。

イ 知ったかぶりをして偉そうな態度でいうことば。

ウ しゃばってよい口出しをしていることば。

エ 自分が利益を得ることしか考えないでいうことば。

(b) 「均質な」

ア むらのない イ しっかりした ウ 狭苦しい エ 孤立した

問三 次の文を補うところとして最も適切なものを文中の⑦⑧の中から選び、記号で答えなさい。

つまり、日本人は、おれたちの街はこういうふうでありたい、食べ物はどうでありたいということもなくしてしまいました。

問四 [] 部 1~3 にはどんなことばが入るか、最も適切なものをそれぞれ次の中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を繰り返して使ってはけません。

ア そこで イ つまり ウ しかも エ だしたら

問五 [] 部 A・B にはどんなことばが入るか、最も適切なことばの組み合わせを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア A 残骸	B 落雷	イ A 死骸	B 津波
ウ A 寝床	B 地震	エ A 寝室	B 竜巻

問六 —— 部 ① 「『余計なお世話だ』ということになる」とあるが、それはなぜか、四十字以内で説明しなさい。

問七 —— 部 ② 「答えは、わたしたちそれぞれが胸に手を当てて思い出してみれば明らかです」とあるが、その「答え」を考える手がかりとなる一文をここより前の部分から抜き出し、その初めの五字を答えなさい。

問八 —— 部 ③ 「自分の運命は自分で決める」と反対の意味を表す五字以内のことばをここより後の部分から抜き出して答えなさい。

問九 ——— 部④「そういう家庭の生活というのをあまり注意しないようにして」とあるが、こ

で筆者は、日本人がどのような生活をしていると言っているのか、その説明として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 収入を上げるためには、貧しい食事内容でも我慢するような生活。
イ 朝昼晩の食事のたびに、一家団欒で楽しく食事をするような生活。
ウ 働き手の帰りを待たずに、他の家族が先に夕食をとるような生活。
エ 父親が懸命に呼びかけても、家族が食事に集まらないような生活。

問十 ——— 部⑤「根なし草」とはどういうことを表しているのか、説明しなさい。

問十一 この文章の主題として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

- ア 西洋文化に学ぶ大切さ イ 国際化する日本人 ウ 日本と西洋の相違
エ 日本人らしさの消失

問十二 ……… 部「この島国に生まれて、こういうものを食べて、頑張つて生きていくという約束事が今全部崩れているわけです」とあるが、ここで筆者が述べていることに対してあなたは思ううか、あなたの身のまわりのことを例にあげて、それに基づいてあなたの意見を二百字以内で書きなさい。

三 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。なお1～4は場面の番号です。

1

ぼくは、リレーに出場することになった。

それも、市内の小学校の陸上クラブの対抗戦。4×100リレーの六年生の部。

これって、すごくない？

君には、どうってことないのかなあ。ぼくにとっては、たいした事件なんだけど。

だって、ぼくは、もともと、そんなに脚が速いほうではなかった。遅いとは言わない。でも、まあ、ふつうだろう。

それなのにリレーのメンバーに選ばれた理由は、実に簡単。

多くの小学校では、陸上クラブは人気がない。最初から部員が少ない。サッカーなんかとくらべると、なんか地味な感じでしょ。

そのうえ、練習がわりと単純である。だから、途中で何人もやめた。

夏の大会の時点で、男子の六年生部員は、ぼくをふくめ、なんと四人になっていた。つまり、4×100リレーに出る四人。

放課後、特別にリレーの練習が始まった。それまでも、走るの走ってたから、バトン・パスが中心。

先生が、説明してくれた。

バトンを渡すうえで大切なのは、受けとるランナーが十分に加速しておくこと。決められた幅のリレー・ゾーンの中で。それで、渡す役のランナーともう役のランナーが同じスピードになったところで、バトン・パス。

短距離はスタートの部分で時間がかかる。受けとるランナーが前もって加速できる四百メートル・リレーの記録は、四人の百メートルのタイムの合計よりずっと速くなる。

そうなんだと思う。理屈ではね。

ぼくは第三走者だった。第二走者の竹田が走ってくる。タイミングをはかって、ぼくが走り出す。すると、すぐにふたりの間がつまり、竹田に押し倒されそうになる。

「おまえなあ、のろのろすんなよな」

竹田は、いらいらしている。

今度は早めにスタートしてみる。そうすると、ぼくは、竹田の足音を聞きながら、ゾーンの線をオーバーしてしまふ。振り向くと、竹田は膝に手をあて下を向いていた。

竹田は何も言わない。顔をあげようとしたけど、バトンの先がぶるぶるしてるのがわかった。

福岡と合わせるのは、ずっとやさしかった。

ぼくが、ハイッ、と言ってバトンを差し出す。すると、そのときには、後ろに目があるかのように、

福岡の手がしっかりと伸びている。

1

ぼくとは違って、ずっと、運動会のスターだったのだから。

走ることだけではなく、ぼくは、すべてが「ふつう」なんだと思う。勉強でも、運動でも。あまり、おもしろいことも言えない。

そういう子にとっては、小学校生活は、そんなに愉快じゃない。

そう。だから、ぼくは消しゴムを持っていた。ぼくのための特製の消しゴム。何かいやなことがあると、ぼくは、いそいでその消しゴムをかける。

国語の授業なんて、いい例だ。

窓の外をながめていると、教科書に何が書いてあるのか、ぼくには、わからなくなってしまう。わからなくなっていると、よく先生に当てられる。

雲が流れるのを見ていたんだから、当然、ぼくは答えられない。あるいは適当な答えを言ってみる。

みんなに笑われる。

ぼくは、ぼくの消しゴムをひとこすりした。

すると、国語の教科書も、先生も、消える。

ひとり、ぼつんと立たされているぼくの前から、黒板が消え、クラスの子たちが消え、教室が消えていく。

女子チームもリレーに出場する。

毎日の練習の終わりに、男女で、実際に四人通してレースをやった。もちろん、女子に負けるわけにはいかない。

で、勝敗は、明らかに三走のほくにかかっていた。

竹田までは、ほくたち男子チームがリードしている。ほくの番になって、途中で抜かれる。

抜かれるけど離されないようにがんばる。すると、福岡が女子を抜きかえす。それがパターン。

④あまり、楽しいパターンではない。

リレーの練習をしてみると、変なことが起こってきた。

女子でいちばん速いのは、第一走者の児島さんだった。うちの学校の六年生の男を全部集めても、児島さんに勝てるやつは、そんなにいないと思う。

女の子たちの間では、コジョって呼ばれてる、児島さん。

変なのは、その児島さんではなくてほくのほうで、ほくは、いつのまにか児島さんを見ている自分に、気がつくようになった。

児島さんが、スターティング・ブロックをセットする。足の幅をいねいに調整している。

「位置について」の合図。

ラインの手前に両手をつく児島さん。

「用意」で、児島さんが腰を上げる。クラウチング・スタートの姿勢は、猫みたい。児島さんの真剣な顔つき。額に汗が光っているのがわかる。

ほくは、**A** 恥ずかしくなつて、むりやり目をそらす。

竹田とほくのバトン・パスは、**B** まともになつてきた。何回かに一回は、呼吸が**C** 合う。そうすると竹田は喜んで、バトンでほくの頭をバカバカたいた。

そんなふうにして放課後の陸上クラブの練習が終わると、ほくは竹田ではなく福岡と一緒に帰っていた。第二走者より第四走者のほうがやさしいっていうせいではない。**D**、家が近いから。

それが、いつのまにか、そこに児島さんが加わるようになった。たしかに児島さんも、方向が同じといえば同じだった。

福岡と児島さんが、話をしていた。ほくは、ふたりがしゃべるのを聞いていた。ときどき、児島さんがほくに何か言った。ほくは、驚いて、適当に返事する。

⑤国語の時間みたいだ。

国語の時間みたいに、雲を見ていたわけではなかったのだけれど。

いよいよ大会になった。

陸上競技場は、気が遠くなるくらい広い。

トラックは、一周が四百メートル。走るレーンになつてるところは赤い。校庭みたいに土じゃなくて、ゴムでできてるんだって。

開会式で並ぶときにさわってみた。ゴムっていつても硬くて、表面はでこぼこしていた。階段になつたスタンドにすわつて、ウォーミング・アップの時間を待った。

福岡と児島さんが、しゃべっていた。それは、いつもの学校の帰りと同じことだったんだろう。レースが近づいてくるから、興奮して声が少し大きくなってたかもしれないけど。

でも、楽しそうに話し、楽しそうに笑うふたりの横にいて、ほくは、突然、自分がまぬけだ、と感じた。

大きなスタジアムで、ほくは、やせて小さかった。ほくは、トラックを見下ろしていた。隣では、児島さんの笑い声が響いていた。

いつまでも。

予選のレース。

ここで二位までにはいつておかないと、決勝に進めない。先生の予想では、なんとかいけそうだっていうんだけど。

ほくは三走だから、バック・スタンドの前でバトンを受ける。

はるかかなた、トラックの対角線上でレースが始まる。第一走者たちの腰が、きれいにそろつて上がった。

ピストル。

一発でスタート。

いちばん後ろで大きく遅れてる選手はいるけれど、前のほうはあまり差がひらかない。

一走から二走へ。竹田がバックの直線に来る。たぶん、二位。

ほくは、腰を落とし、タイミングをはかる。

よし。

スタートを切る。

一、二、三。前を向いたまま、ほくは後ろに手を伸ばす。ほくの手に、バトンがたたきつけられる。痛いくらいだ。

呼吸は合った。

ほくは、走る。いつもは長く感じられる百メートルは、あつという間だ。

ほくのレーンの先では福岡が大きく腕を回していた。三位。もしかしたら四位になつてるのかも。

第四コーナーの外には、応援の生徒たちがいた。何か叫んだり、手をたたいたりしている、小学生のかたまり。

ほくの目に児島さんの姿が飛び込んできた。

そのとき、突然、なんだか黒いものがわいてきた。黒くて重い何かが、ほくの心の中に広がっていく。

ほくは、思い出してしまった。

さつき、スタンドで、福岡がコジョと言っていたことを。

コジ、と児島さんに話しかける福岡。それに対して、笑って答える児島さん。福岡が児島さんをそう呼ぶのを、ぼくは、初めて聞いた。

内側のレーンのやつが出て来たのに、ぼくは気づく。並ばれてしまう。あと少しでバトン・パスなのに。

ぼくのせいで、リレーは予選落ちになってしまいそう。

消しゴム。

⑥ ぼくの、あの消しゴム。

ぼくが消しゴムをかければ、消えていく。隣のレーンのやつも、応援の生徒たちも。

消しゴムにこすられて、児島さんが消え、陸上競技場が消える。

福岡が、叫ぶのが聞こえた。ファイト、と言ったのだ。

ぼくは、けんめいにスパートする。⑦ ぼくのからだは、ぼくを走らせる。

リレー・ゾーンにはいる。福岡が走り出す。

でも、いつものタイミングより、少し早い。福岡の背中が、遠くに感じられる。

福岡は、スピードをゆるめようとしないう。バトンをパスできないまま、振り切られてしまいそう。

リレー・ゾーンの前が目にはいる。チャンスは、いましかない。

ハイッ、と叫んで、ぼくは思いっ切り飛び込んだ。福岡が後ろに手を伸ばした。

からだをひねり、右手をまっすぐに伸ばす。バトンを、福岡の手をめぐり、倒れこむように突き出す。

なんとか、届きますように。

ぼくは、勢いあまって、ころんでしまった。顔をあげると、ゾーンが終わるラインのぎりぎりのところだった。

ぼくは、トラックにはいつくばったまま、ゴールに向かうアンカーたちの背中を見ていた。

「ごめん、失敗した。スタートが早すぎた。きつと、あせってたんだと思う」

ゴールにみんなが集まったとき、福岡は真剣にあやまった。

ぼくの膝はすりむけて血が出ていた。肘もひりひりする。

福岡は速かった。二着。

決勝進出だ。

「よく落とさなかったわね。先っぽしか、つかめなかったでしょ。やっぱり、福岡君、うまい。結果としては、最高のバトン・パスよ」

児島さんが、興奮している。

ぼくは、なんだか、ばかばかしくなっていた。

何がつて？

もちろん、消しゴムのこと。

結果がいつていうのなら、それで、いいか。あれが最高のバトン・パスだったかどうかは、かなりあやしいけど。

それに、まだ決勝がある。

傷の手当てをするようにって、役員のひとに言われた。トラックのわきのテントを教えてもらった。歩きながら、ぼくは考えた。

あのとき、ぼくが消したかったのは、児島さんでも陸上競技場でもない。いつも福岡と児島さんの隣でだまっている、ちっぽけな自分の姿だったのだろうと。

校庭を大回りで五周。

風が冷たかった。陸上クラブは、駅伝に向けた練習をしている。ぼくは、福岡と並んでトップでゴールイン。

「ほんとに知らなかったよ、おまえに、こんな、才能が、あったなんて……」

遅れてゴールにはいつてきた竹田は、息をせいせいさせてる。

それは、ぼくも知らなかった。

でも、才能っていうほどのものでもないと思う。クラブでのトレーニングの成果って呼ぶべき。

あと、夜に家の周りを走ってるのも、少しは役に立ってるかなあ。

五・六年の合同チームが出場する駅伝では、アンカーをする予定。最後にタスキをもらう役だ。バトンではなく。

夏の大会の4×100リレーは、結局、決勝で六着だった。つまり、うちの陸上クラブは、市内の小学校全体で六番目に速いということ。

駅伝では、その順位を上回るのが一応の目標になる。

意外に長距離に向いてたとはいっても、ぼくは、そんなにすごいランナーになれると思ってるわけでもない。ぶつちぎりで区間賞をとるとか、市の記録を破るとかいうような。

まあ、「ふつう」の選手かな。

けれど、それは、どうでもよかった。

君にも、わかってもらえるかな。ぼくは、単に楽しい。走るということが。今日は、昨日よりも速く走れるかもしれないから。

⑧ 消しゴムは、知らない。

あくまで、いまのところは、だけどね。

問一 4の場面をさらに三つの場面に分けるとすると、第二・第三の場面はどこから始まるか、それぞれ初めの五字を抜き出して答えなさい。

問二 部A～Dにはどんなことばが入るか、最も適切なものをそれぞれ次のの中から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を繰り返して使ってはけません。
ア だんだん イ もともと ウ みごとに エ なんだか

問三 部「痛いくらいだ」の「くらい」と同じ意味で使われているものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

ア あんなに叱られるくらいなら、宿題をすればよかった。
イ 十歳くらいの男の子が、駅の前を歩いてた。
ウ 財布の中には千円くらいしか入っていない。
エ 宇宙は、気が遠くなるくらい広い。

問四 部①「理屈ではね。」とあるが、この後に「けれど」で始まる三十字以内のことばを考えて補いなさい。

問五 部②「バトンの先がぶるぶるしてる」とあるが、ここで表されている意味内容としてふさわしくないものを次のの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 竹田は、バトン・パスの練習がたび重なったせいで、ずいぶん疲れてきている。
イ 竹田は、「ぼく」のバトン・パスの下手さに、いいかげん腹をたてて怒っている。
ウ 竹田は、バトン・パスの練習があまりにもうまくいかなのが面白くて笑っている。
エ 竹田は、バトン・パスがまだにうまくいかないことに強いあせりを感じている。

問六 部③に入ることはとして最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

ア それは、福岡がうまかったのだ。福岡は、アンカーには慣れていた。
イ それは、ぼくと福岡の相性が良かったのだ。ぼくと福岡は呼吸が合った。
ウ それは、ぼくのくせの問題だ。バトンをもらうのは苦手だけど渡すのは得意だった。
エ それは、練習回数の差だ。ぼくと福岡は四年生の運動会からずっとコンビだったのだ。

問七 部③「消しゴム」とあるが、これは「ぼく」としてどのようなものか、その説明として最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

ア 何があっても自分をはげまし、前向きにしてくれるもの。
イ つらいことから目をそらさせ、落ちつかせてくれるもの。
ウ 自分で自分を適当にごまかし、納得させてくれるもの。
エ いろいろな願いをかなえ、勇気をあたえてくれるもの。

問八 部④「あまり、楽しいパターンではない」とあるが、それはなぜか、答えなさい。

問九 部⑤「国語の時間みたいだ」とあるが、どういうところが「国語の時間」と同じだったのか、その説明として最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

ア 目の前で話されていることにまったく関心がないところ。
イ その場にふさわしくない態度を笑われてしまうところ。
ウ まわりのものが全部が消えていってしまうところ。
エ ちぐはぐな受け応えをしてしまうところ。

問十 部⑥「ぼくの、あの消しゴム」とあるが、この時の「消しゴム」の使い方はいつもとは違っていると考えられる。その違いはどのようなものか、説明しなさい。

問十一 部⑦「ぼくのからが、ぼくを走らせる」とあるが、これはどういうことか、その説明として最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。
ア 自分の体が自然に前へ前へと進んでゆく、ということ。
イ いつもよりずっと速いスピードで走れている、ということ。
ウ 思ったより速く走れているので自信が出てきた、ということ。
エ 気持ちだけが空回りして体をむりやり動かしている、ということ。

問十二 部⑧「消しゴムは、いらない。あくまで、いまのところは、だけどね」とあるが、これは「ぼく」のどんな思いを表しているか、最も適切なものを次のの中から選び、記号で答えなさい。

ア 今回はたまたま「消しゴム」に頼らずにうまくやり通せたが、自分のことだからこれからもまた使ってしまうことがあるかも知れないと思っている。
イ まだ多少不安を残してはいるものの、これから先いrownなことがあったとしても逃げずに乗り越えていくことができるという自信を持ち始めている。
ウ 児島さんのことばを聞いて「消しゴム」を使うのがばかしくなったのでしばらくは使いたくはないが、そのうちまた必要になるだろうと考えている。
エ 自分にはけっこう長距離の才能があるとわかった今は、とりあえず駅伝に集中したいので、それ以外のことは何も考えたくないという気持ちでいる。

【三】 次の各組の（ ）部に、共通して入る適切な動物名を漢字で答え、ことわざ・慣用句を完成させなさい。

- | | | | |
|---|----------------|---|----------------|
| ① | () が合う。 | ② | () の歩み。 |
| | 生き () の目を抜く。 | | () 耳を執る。 |
| ③ | かごの () 。 | ④ | () も歩けば棒に当たる。 |
| | 飛ぶ () を落とす勢い。 | | () 猿の仲。 |

【四】 後にあげた漢字を組み合わせ、次のような意味を持つ二字の熟語を完成させなさい。ただし、同じ漢字を繰り返して使ってはけません。

- ① くわしく正確であるさま。
- ② 問い合わせに対して答えを返すこと。
- ③ 「ほしい」「したい」という気持ち。
- ④ 物事の進行する途中の段階。道すじ。
- ⑤ ある意見や方針に賛成してそれを応援すること。

答 望 解 持 過 精 樂 程 欲 回 指 密 支

【五】 次の①～⑤は、風の名前をグループに分けたものです。それぞれのような基準で分けたものか、最も適切なものを後から選び、記号で答えなさい。ただし、同じ記号を繰り返して使ってはけません。

- ① 熱風・涼風・寒風
- ② 嵐・暴風・そよ風
- ③ 浜風・山おろし・松風
- ④ 追い風・横風・逆風
- ⑤ 薫風・木枯らし・若葉風

ア 方向	イ 場所や物	ウ 季節	エ 風の有無	オ 強さや弱さ
力 暖かさや冷たさ				

平成二十二年 度 国 語 解 答 用 紙 (前期)

「句読点」や「かぎかっこ」なども、一字として数えます。

受験番号		得点	
問一	ア	第二	第三
問二	a	第三	問二
問三	b	問六	A
問四	イ	問七	B
問五	ウ	問八	C
問六	エ	問九	D
問七	オ	問十	
問八		問十一	
問九		問十二	
問十		問十三	
問十一		問十四	
問十二		問十五	
問十三		問十六	
問十四		問十七	
問十五		問十八	
問十六		問十九	
問十七		問二十	
問十八		問二十一	
問十九		問二十二	
問二十		問二十三	
問二十一		問二十四	
問二十二		問二十五	
問二十三		問二十六	
問二十四		問二十七	
問二十五		問二十八	
問二十六		問二十九	
問二十七		問三十	
問二十八		問三十一	
問二十九		問三十二	
問三十		問三十三	
問三十一		問三十四	
問三十二		問三十五	
問三十三		問三十六	
問三十四		問三十七	
問三十五		問三十八	
問三十六		問三十九	
問三十七		問四十	
問三十八		問四十一	
問三十九		問四十二	
問四十		問四十三	
問四十一		問四十四	
問四十二		問四十五	
問四十三		問四十六	
問四十四		問四十七	
問四十五		問四十八	
問四十六		問四十九	
問四十七		問五十	
問四十八		問五十一	
問四十九		問五十二	
問五十		問五十三	
問五十一		問五十四	
問五十二		問五十五	
問五十三		問五十六	
問五十四		問五十七	
問五十五		問五十八	
問五十六		問五十九	
問五十七		問六十	
問五十八		問六十一	
問五十九		問六十二	
問六十		問六十三	
問六十一		問六十四	
問六十二		問六十五	
問六十三		問六十六	
問六十四		問六十七	
問六十五		問六十八	
問六十六		問六十九	
問六十七		問七十	
問六十八		問七十一	
問六十九		問七十二	
問七十		問七十三	
問七十一		問七十四	
問七十二		問七十五	
問七十三		問七十六	
問七十四		問七十七	
問七十五		問七十八	
問七十六		問七十九	
問七十七		問八十	
問七十八		問八十一	
問七十九		問八十二	
問八十		問八十三	
問八十一		問八十四	
問八十二		問八十五	
問八十三		問八十六	
問八十四		問八十七	
問八十五		問八十八	
問八十六		問八十九	
問八十七		問九十	
問八十八		問九十一	
問八十九		問九十二	
問九十		問九十三	
問九十一		問九十四	
問九十二		問九十五	
問九十三		問九十六	
問九十四		問九十七	
問九十五		問九十八	
問九十六		問九十九	
問九十七		問一百	
問九十八		問一百一	
問九十九		問一百二	
問一百		問一百三	
問一百一		問一百四	
問一百二		問一百五	
問一百三		問一百六	
問一百四		問一百七	
問一百五		問一百八	
問一百六		問一百九	
問一百七		問一百十	
問一百八		問一百一十	
問一百九		問一百二十	
問一百十		問一百三十	
問一百一十		問一百四十	
問一百二十		問一百五十	
問一百三十		問一百六十	
問一百四十		問一百七十	
問一百五十		問一百八十	
問一百六十		問一百九十	
問一百七十		問二百	
問一百八十		問二百一	
問一百九十		問二百二	
問二百		問二百三	
問二百一		問二百四	
問二百二		問二百五	
問二百三		問二百六	
問二百四		問二百七	
問二百五		問二百八	
問二百六		問二百九	
問二百七		問三百	
問二百八		問三百一	
問二百九		問三百二	
問三百		問三百三	
問三百一		問三百四	
問三百二		問三百五	
問三百三		問三百六	
問三百四		問三百七	
問三百五		問三百八	
問三百六		問三百九	
問三百七		問四百	
問三百八		問四百一	
問三百九		問四百二	
問四百		問四百三	
問四百一		問四百四	
問四百二		問四百五	
問四百三		問四百六	
問四百四		問四百七	
問四百五		問四百八	
問四百六		問四百九	
問四百七		問五百	
問四百八		問五百一	
問四百九		問五百二	
問五百		問五百三	
問五百一		問五百四	
問五百二		問五百五	
問五百三		問五百六	
問五百四		問五百七	
問五百五		問五百八	
問五百六		問五百九	
問五百七		問六百	
問五百八		問六百一	
問五百九		問六百二	
問六百		問六百三	
問六百一		問六百四	
問六百二		問六百五	
問六百三		問六百六	
問六百四		問六百七	
問六百五		問六百八	
問六百六		問六百九	
問六百七		問七百	
問六百八		問七百一	
問六百九		問七百二	
問七百		問七百三	
問七百一		問七百四	
問七百二		問七百五	
問七百三		問七百六	
問七百四		問七百七	
問七百五		問七百八	
問七百六		問七百九	
問七百七		問八百	
問七百八		問八百一	
問七百九		問八百二	
問八百		問八百三	
問八百一		問八百四	
問八百二		問八百五	
問八百三		問八百六	
問八百四		問八百七	
問八百五		問八百八	
問八百六		問八百九	
問八百七		問九百	
問八百八		問九百一	
問八百九		問九百二	
問九百		問九百三	
問九百一		問九百四	
問九百二		問九百五	
問九百三		問九百六	
問九百四		問九百七	
問九百五		問九百八	
問九百六		問九百九	
問九百七		問一千	
問九百八		問一千一	
問九百九		問一千二	
問一千		問一千三	
問一千一		問一千四	
問一千二		問一千五	
問一千三		問一千六	
問一千四		問一千七	
問一千五		問一千八	
問一千六		問一千九	
問一千七		問二千	
問一千八		問二千一	
問一千九		問二千二	
問二千		問二千三	
問二千一		問二千四	
問二千二		問二千五	
問二千三		問二千六	
問二千四		問二千七	
問二千五		問二千八	
問二千六		問二千九	
問二千七		問三千	
問二千八		問三千一	
問二千九		問三千二	
問三千		問三千三	
問三千一		問三千四	
問三千二		問三千五	
問三千三		問三千六	
問三千四		問三千七	
問三千五		問三千八	
問三千六		問三千九	
問三千七		問四千	
問三千八		問四千一	
問三千九		問四千二	
問四千		問四千三	
問四千一		問四千四	
問四千二		問四千五	
問四千三		問四千六	
問四千四		問四千七	
問四千五		問四千八	
問四千六		問四千九	
問四千七		問五千	
問四千八		問五千一	
問四千九		問五千二	
問五千		問五千三	
問五千一		問五千四	
問五千二		問五千五	
問五千三		問五千六	
問五千四		問五千七	
問五千五		問五千八	
問五千六		問五千九	
問五千七		問六千	
問五千八		問六千一	
問五千九		問六千二	
問六千		問六千三	
問六千一		問六千四	
問六千二		問六千五	
問六千三		問六千六	
問六千四		問六千七	
問六千五		問六千八	
問六千六		問六千九	
問六千七		問七千	
問六千八		問七千一	
問六千九		問七千二	
問七千		問七千三	
問七千一		問七千四	
問七千二		問七千五	
問七千三		問七千六	
問七千四		問七千七	
問七千五		問七千八	
問七千六		問七千九	
問七千七		問八千	
問七千八		問八千一	
問七千九		問八千二	
問八千		問八千三	
問八千一		問八千四	
問八千二		問八千五	
問八千三		問八千六	
問八千四		問八千七	
問八千五		問八千八	
問八千六		問八千九	
問八千七		問九千	
問八千八		問九千一	
問八千九		問九千二	
問九千		問九千三	
問九千一		問九千四	
問九千二		問九千五	
問九千三		問九千六	
問九千四		問九千七	
問九千五		問九千八	
問九千六		問九千九	
問九千七		問一万	
問九千八		問一万一	
問九千九		問一万二	
問一万		問一万三	
問一万一		問一万四	
問一万二		問一万五	
問一万三		問一万六	
問一万四		問一万七	
問一万五		問一万八	
問一万六		問一万九	
問一万七		問二万	
問一万八		問二万一	
問一万九		問二万二	
問二万		問二万三	
問二万一		問二万四	
問二万二		問二万五	
問二万三		問二万六	
問二万四		問二万七	
問二万五		問二万八	
問二万六		問二万九	
問二万七		問三万	
問二万八		問三万一	
問二万九		問三万二	
問三万		問三万三	
問三万一		問三万四	
問三万二		問三万五	
問三万三		問三万六	
問三万四		問三万七	
問三万五		問三万八	
問三万六		問三万九	
問三万七		問四万	
問三万八		問四万一	
問三万九		問四万二	
問四万		問四万三	
問四万一		問四万四	
問四万二		問四万五	
問四万三		問四万六	
問四万四		問四万七	
問四万五		問四万八	
問四万六		問四万九	
問四万七		問五万	
問四万八		問五万一	
問四万九		問五万二	
問五万		問五万三	
問五万一		問五万四	
問五万二		問五万五	
問五万三		問五万六	
問五万四		問五万七	
問五万五		問五万八	
問五万六		問五万九	
問五万七		問六万	
問五万八		問六万一	
問五万九		問六万二	
問六万		問六万三	
問六万一		問六万四	
問六万二		問六万五	
問六万三		問六万六	
問六万四		問六万七	
問六万五		問六万八	
問六万六		問六万九	
問六万七		問七万	
問六万八		問七万一	
問六万九		問七万二	
問七万		問七万三	
問七万一		問七万四	
問七万二		問七万五	
問七万三		問七万六	
問七万四		問七万七	
問七万五		問七万八	
問七万六		問七万九	
問七万七		問八万	
問七万八		問八万一	
問七万九		問八万二	
問八万		問八万三	
問八万一		問八万四	
問八万二		問八万五	
問八万三		問八万六	
問八万四		問八万七	
問八万五		問八万八	
問八万六		問八万九	
問八万七		問九万	
問八万八		問九万一	
問八万九		問九万二	
問九万		問九万三	
問九万一		問九万四	
問九万二		問九万五	
問九万三		問九万六	
問九万四		問九万七	
問九万五		問九万八	
問九万六		問九万九	
問九万七		問十万	
問九万八		問十万一	
問九万九		問十万二	
問十万		問十万三	
問十万一		問十万四	
問十万二		問十万五	
問十万三		問十万六	
問十万四		問十万七	
問十万五		問十万八	
問十万六		問十万九	
問十万七		問十一万	
問十万八		問十一万一	
問十万九		問十一万二	
問十一万		問十一万三	
問十一万一		問十一万四	
問十一万二		問十一万五	
問十一万三		問十一万六	
問十一万四		問十一万七	
問十一万五		問十一万八	
問十一万六		問十一万九	
問十一万七		問十二万	
問十一万八		問十二万一	
問十一万九		問十二万二	
問十二万		問十二万三	
問十二万一		問十二万四	
問十二万二		問十二万五	
問十二万三		問十二万六	
問十二万四		問十二万七	
問十二万五		問十二万八	
問十二万六		問十二万九	
問十二万七		問十三万	
問十二万八		問十三万一	
問十二万九		問十三万二	
問十三万		問十三万三	
問十三万一		問十三万四	
問十三万二		問十三万五	
問十三万三		問十三万六	
問十三万四		問十三万七	
問十三万五		問十三万八	
問十三万六		問十三万九	
問十三万七		問十四万	
問十三万八		問十四万一	
問十三万九		問十四万二	
問十四万		問十四万三	
問十四万一		問十四万四	
問十四万二		問十四万五	
問十四万三		問十四万六	
問十四万四		問十四万七	
問十四万五		問十四万八	
問十四万六		問十四万九	
問十四万七		問十五万	
問十四万八		問十五万一	
問十四万九		問十五万二	
問十五万		問	